

## 第2学年1組 国語科学習指導案

### 1 単元名 ことばを磨く 教材名「短歌の世界」「短歌十首」

### 2 指導観

- 生徒たちはすでに小学校でも短歌の学習をしており、やや難しい文語の表現もさほど抵抗なく学習を進めることができることが予想される。中学校では短歌の学習として、さらにことばへの着目を強め、豊かに味わわせていきたい。

短歌は千年以上の歴史をもちながら、現代でもなお新たな表現の形が生み出されている日本独自の定型詩である。また、五・七・五・七・七の三十一音という限られた音数に作者の心象が表現されていることから、ことばを作者が十分に吟味し、こだわり抜いて使用していると考えられる。

以上のことから、短歌の学習を通して、日本人が長年培ってきたことばに対する思いの深さに触れ、表現の工夫を学ぶことができる。さらに、選び抜かれ吟味されたことばから想像力を働かせ情景や心情を読み取り、そこに込められた作者の感動や思いに触れることで、生徒自身がものの見方や考え方を深めるうえで大変意義深い単元である。

- 本学級(38名)で事前アンケートを行った結果、短歌の学習について「『いちはつの花咲出でて我が目には今年ばかりの春行かんとす』の種類は短歌・俳句・詩・百人一首のうちどれか」という質問について、正解である「短歌」を選んだ生徒は19人という結果が出た。理由として「五・七・五・七・七になっているから」や「三十一音だから」など短歌の知識を理由にあげることができた生徒は17人だった。このことから、どんなものが短歌だ理解できている生徒は半分くらいだということが分かる。また、「短歌や俳句の創作活動は好きか」という質問に対して、3.4(5段階自己評価尺度法による学級平均値)となり、創作活動に対して、やや意欲的な生徒が多いということが分かる。低い数値でと答えた理由として、「何を書いたらいいのかわからない」「字数が決まっていて難しい」「言葉でどのように表現したらいいかわからない」などの意見があった。

- 本単元の指導においては、短歌を読み味わうことで作者の表現の工夫や、短歌の表現技法について理解することができるようにする。さらに、読み味わうことで学習したことを生かし、自分の思いを表現したり、他者の短歌を推敲したりすることができるようにすることをねらいとする。そのためにまず、第一次では短歌の基礎知識について理解できるようにする。次に、第二次では短歌に描かれている情景や心情を想像したり、歌中の表現の工夫や作者がなぜそのことばを使用したのか考えたりすることができるようにする。その際学びの足跡を残すために、振り返りシートを活用し、毎時間振り返り(小さな振り返り活動)行う。第三次では、第二次までに学習してきたことをもとに、他者の短歌を推敲したり、自分の思いが相手に伝わる短歌を作ったりすることができるようにする。終末段階では、単元全体を通して、自己の学びの変容を認識できるように、文章分析シートを用いて学習全体を振り返る場を設定する(大きな振り返り活動)。

### 3 単元目標

- リズムや表現の特徴を理解して内容を捉えたり、短歌の世界を読み味わったりしようとしている。【関心・意欲・態度】
- 他者の短歌を推敲したり、自分の思いが伝わる短歌を創作したりすることができる。【書くこと】
- 短歌に描かれている情景や心情を想像しながら読むことができる。【読むこと】
- 短歌の中での表現技法や語句の意味を理解することができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 単元計画(8時間) 関心・意欲・態度【関】書くこと【書】読むこと【読】伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項【伝国】

次	時	学習活動・内容	指導のねらい・内容・方法	評価規準(観点：方法)
一	1 ①	1 「短歌の世界」を通読する。 (1)短歌の基礎知識について学習する。  (2)単元を貫く課題を確認する。 他者の短歌を推敲したり、自分の思いが相手に伝わる短歌を作ったりすることができるようになる。	短歌の基礎知識について理解できるようにする。  ・短歌の基礎知識について理解できるように、教科書や資料集を活用させ、調べる活動を設定する。	・短歌について関心を持ち、意欲的に課題解決をはかろうとしている。 (関：様相観察・学習プリント) ・短歌の基礎知識について理解することができる。 (伝国：学習プリント)
二	1 ④  2 ①	2 短歌を読み味わう。 【小さな振り返り】  (1)短歌に描かれている情景や心情を想像し、読み取る。 ・俵万智、栗木京子、正岡子規 与謝野晶子の短歌 ・斎藤茂吉、北原白秋 他  (2)歌中の表現の工夫や作者がなぜそのことばを使用したのか考える。 ・俵万智の短歌 『この味がいいね』と君が言ったから7月6日はサラダ記念日	短歌に描かれている情景や心情を想像したり、歌中の表現の工夫や作者がなぜそのことばを使用したのか考えたりすることができるようにする。  ・短歌に描かれている情景や心情を想像したり、読み取ったりすることができるように、5W1Hに着目し考える活動を設定する。 ・個人の考えをもとに、ものの見方・考え方を深めることができるように小集団での交流の場を設定する。 ・歌中の表現の工夫や作者がなぜそのことばを使用したのか考えることができるように、穴埋めにした短歌を提示し、そこに入ることばを考える場を設定する。 ・作者がなぜそのことばを使用したのか、ことばを吟味することができるように、なぜそのことばが入るのか作者の心情を考える場を設定する。 ・学習内容や方法を確認することができるように、振り返りシートを用いて小さな振り返り、交流を行う。	・短歌に描かれている情景や心情を想像し、読み取ることができる。 (読：学習プリント) ・短歌のリズムや表現方法などの特徴を理解して、作品の内容を捉えることができる。 (読：学習プリント) ・情景や心情を表す語句に注意して、短歌を読み味わうことができる。 (読：学習プリント) ・多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 (伝国：学習プリント)
三	1 ②  (本時1/2)	3 単元を貫く課題解決をはか る。 (1)短歌を読み味わったことをもとに、他者が作った短歌を推敲する。 (2)単元学習を通して、自己の学習状況の変容を記述する。 【大きな振り返り】 ・振り返りの全体交流  効果的な表現技法について考えたり、ことばを吟味したりすることで、他者の短歌を推敲したり、自分の思いが相手に伝わる短歌を作ったりすることができる。  (3)秋をテーマに短歌を創作する。	他者の短歌を推敲したり、自分の思いが相手に伝わる短歌を作ったりすることができるようにする。  ・他者が作った短歌を推敲することができるように、短歌を読み味わう観点を想起する場を設定する。 ・短歌を推敲してよりよいものにするために、小集団で交流する場を設定する。 ・単元学習の内容を確認するために、文章分析シートを用いて大きな振り返りを行う場を設定する。 ・自分の思いが相手に伝わる短歌が創作できるように、今まで学習してきたことを想起する場を設定する。 ・秋をイメージしやすいように、秋に関する写真などを用意する。	・短歌を味わって学習したことをもとに、他者の短歌を推敲したり、自分の思いが相手に伝わる短歌を作ったりすることができる。 (書：学習プリント)

6 本時の主眼

他者の短歌を推敲することができる。

7 振り返り活動を仕組む授業づくりの工夫点

これまでの「小さな振り返り活動」で獲得してきた短歌の基礎知識や、歌中に描かれた情景・心情について考えたこと、ことばを吟味してきたことをもとに、小集団による交流活動および全体交流を通して他者の短歌を推敲したり、自分の思いが相手に伝わる短歌を作ったりすることができる。終末段階では、単元学習を通して、自己の学習状況の変容を認識するための文章記述による「大きな振り返り活動」を行う。個人の振り返りを全体で共有し、交流する場を設定する。

8 準備 学習プリント

9 本時の過程

関心・意欲・態度【関】書くこと【書】読むこと【読】伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項【伝国】

段階	学習活動・内容	具体的な手立て（支援）	評価の観点（方法）	形態	配時
つかむ	1 前時までの学習内容を想起し、本時の学習の見通しを立てる。 (1) 短歌を読み味わうときに着目したことを確認する。 (2) 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">短歌を推敲しよう。</div>	○前時までの学習内容が想起できるように前時までに使った学習プリントを確認する場を設定する。  ○本時の学習の見通しを確認することができるように、学習の流れを確認する場を設定する。		一斉	5
さぐる・深める	2 他者の短歌を推敲する。 ・提示された短歌を推敲する。	○具体的に推敲できるように、どの言葉を推敲するのかを赤の付箋、なぜ推敲するのかを青の付箋、推敲した言葉を黄の付箋に書く活動の場を設定する。  ○小集団で交流するときに交流しやすいように、学習プリントを工夫する。  ○推敲や創作をする際に、ことばを吟味できるように、辞書や資料集を活用する場を設定する。	○他者の短歌を推敲したり、自分の思いが相手に伝わる短歌を作ったりすることができる。 <b>【書】【伝国】</b> (様相観察・学習プリント)	個／小集団	35
まとめる・振り返る	3 本時のまとめを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">効果的な表現技法について考えたり、ことばを吟味したりすることで、他者の短歌を推敲したり、自分の思いが相手に伝わる短歌を作ったりすることができる。</div>	○単元全体を通して、何がわかったのか、何ができるようになったのか自己の学習状況の変容を認識できるように、文章分析シートを用いて大きな振り返りを行う場を設定する。		一斉 ↓ 個	10
	4 大きな振り返りを行う。 ・単元の学習を終えての振り返りを記述する。 ・全体で交流する。				